

2020年8月3日

～あれから75年。過去と未来と広島と世界を紡ごう～

「ONLINEとうろう流し」の開催



**日本、世界の子供たちと国内TOPアーティスト、そして日本を代表する
オーケストラの協力を得て作り上げた「広島 愛の川2020」映像発信と
オンライン上で参加できる「オンラインとうろう流し」**

日頃よりたいへんお世話になっております。

この度、広島を過去と現在、未来を一同に望むことができる原爆ドームの東隣の施設「おりづる
タワー」（代表松田哲也）と「はだしのゲン」作者中沢啓治さんが生前に書き残した「広島 愛の
川」に込められた想いを未来へ歌い残す活動を続けている「広島 愛の川実行委員会」（代表山本
加津彦、実行委員長 新田信雄）が、主催となり、「あれから75年。過去と未来と広島と世界を
紡ごう」をテーマに、「ONLINEとうろう流し」を開催する運びとなりました。

つきましては、本事業の詳細を、次頁以降にてお知らせいたします。

ぜひ、ご熟読いただき、関係各所様に向けた情報発信へのご協力のほどをよろしくお願ひ申し上
げます。

敬具

（本資料に関するお問い合わせ先）

「オンラインとうろう流し」実施事務局 奥村（おくむら）

okumura.shi@mazda-dealer.jp 電話080-8984-6796

開催背景

2020年の日本。ほんとうなら、東京オリンピックが開かれる年でした。

2020年の広島。ほんとうなら、今年は、「75年前の広島の方々」に、結果を報告させていただき、次の100年に向けて、思いを新たにする節目の年でした。

しかし、コロナウィルスに圧倒され、私たちの75年目は、信じられないほど、空虚になりつつあります。

2020年8月6日は、ターニングポイントであるはずの日です。

コロナ禍でもできること、規模は小さく、心には大きく、広島らしく、今らしく。

全ての制約を受け入れ、心の集いから始めたく、「ONLINEとうろう流し」を開催し、平和を祈念するたくさんの人の想いを、途切れさせず、未来へ、世界へと紡いでいきたいと考えます。

未来へ、世界へと紡いでいく2つの主軸プログラム



開催タイトル（ロゴ）と名義関係



～あれから75年。過去と未来と広島と世界を紡ごう～

主催 : おりづるタワー、広島 愛の川実行委員会

協力 : 広島商工会議所、広島経済同友会、第37回全国都市緑化ひろしまフェア実行委員会事務局

とうろう流し実行委員会、とうろう流しを支える市民、第三世代が考えるヒロシマ「 」継ぐ展

後援 : 広島県（予定）、広島市、広島県観光連盟

公益財団法人 広島観光コンベンションビューロー（予定）、広島青年会議所

ONLINEとうろう流し特別サイトを開設します

<http://tourounagashi.org>

サイト開設期間 2020年8月5日（水）～8月31日（月）

（サイトの役割）

平和を希求する
みんなの想いが集まる場

（サイトの役割）

過去から未来へ紡ぐ
道しるべとなる場

（サイトの役割）

広島へ日本へ世界へ
つながるゲートとして

（サイト内の展開内容）

自宅で、職場で、街中で、参加できる ONLINEとうろう流し

オンライン上でとうろう流しが参加できます。
実際の川に灯ろうを流すのではなく、ネット環境を使い、
仮想空間の中で、行います。参加者は、ご自宅にいらできる
ため、県内、県外、海外からの参加も可能です。
また、高齢化が進む被爆者の方々にも、ご負担をかけることなく
参加いただけます。

※すでに仮想空間でのとうろう流しを実施している
「第三世代が考えるヒロシマ」継ぐ展様に協力いただき実施するものです。



錚々たるアーティストと日本、世界の子供たちが歌い上げる 「広島 愛の川2020」

「はだしのゲン」作者中沢啓治さんが生前に書き残した
「広島 愛の川」を、現地での合唱が行えないために、
日本全国から（海外からも）みんなで歌った動画を募集。
広島、国内、海外16カ国からの子供達と歌手の皆さんと歌う
動画を集め、日本を代表するオーケストラの協力を得て、完成
した「広島愛の川2020」を、8月6日当日、本サイトにて
発信します。



ひろしまのとうろう流しの紹介

LIVE配信（6日のみ）

- ◎英語版にも対応します。
- ◎終了後も実施映像を取りまとめて発信するサイトとして継続します。

当日は、花が集まる会場に、投影会場を設けます。

どうしても広島平和記念公園近くで参加したい方。「とうろう流し」の中止を知らずに来られ方。
帰宅途中に立ち寄られた方を対象とした投影会場を、「ひろしまはなのわ2020メイン会場（旧広島市民球場跡地）」です。会場内に設けた大型スクリーンに映し出された仮想空間でのとうろう流しを見ながら参加できます。
当日は、コロナ対策のもと入場いただけます。

- 実施会場 ひろしまはなのわ2020メイン会場（旧広島市民球場跡地）
- 開場時間 19：00～22：00（予定）

〈オンラインによるとうろう流し〉

参加方法について



ONLINE
とうろう流し

～あれから75年。過去と未来と広島と世界を紡ごう～

特別サイト 開設

<http://tourounagashi.org>

サイト 開設期間
2020年8月5日(水)～8月31日(月)

特別サイト内のボタンをクリックして
入力サイト（第三世代が考えるヒロシマ「」 継ぐ展様）
に進みます



「灯ろうに込めるメッセージ」入力サイトへ

① 灯ろうの色を選択



② プロフィール入力



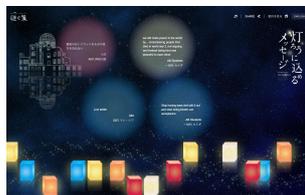
③ 平和へのアクションを選択



④ 平和に向けた想いを入力



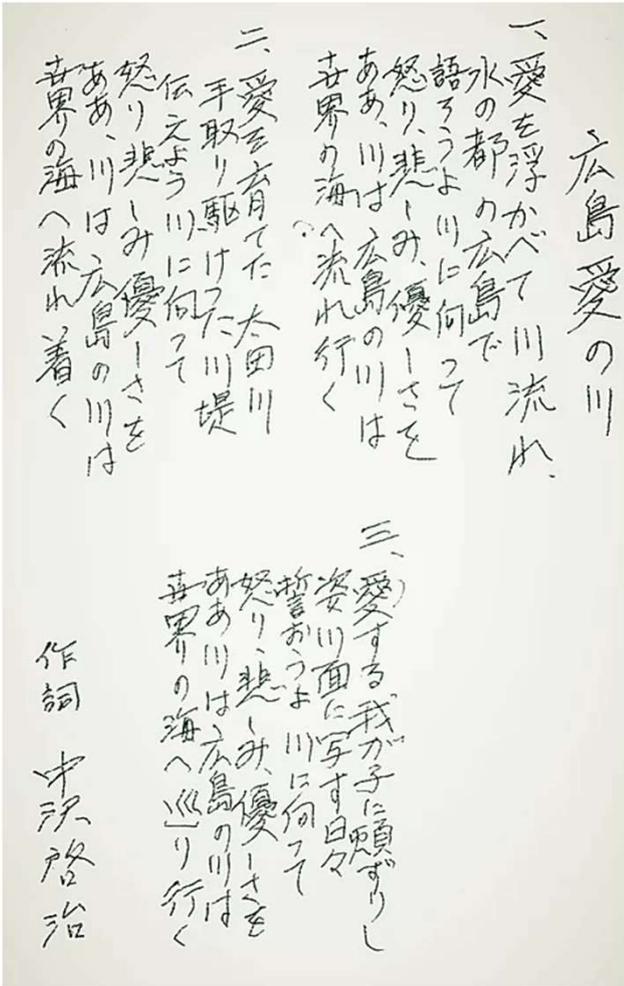
⑤ 仮装空間の川に流れます。



※スマートフォンで参加の場合は、画面上に仮装空間のとうろう流しの絵は現れません。
メッセージを見ることは可能です。

〈広島 愛の川2020〉

「広島 愛の川」の詩に込められた想い



はだしのゲンの作者、中沢啓治さんは、晩年、一つの詩を書き遺しました。

入院中、病院近くの平和記念公園を散歩しながら、じっと川を眺めていたそうです。

「はだしのゲン」では、地獄の様な場面で描かれていた広島川。

見るのも辛かったことかと思えます。

でも、この詩で、中沢さんはその川を「愛の川」と表現しています。

「怒り」「悲しみ」を背負うのは、もう自分たちの時代だけで十分だ。

次の世代には、「優しさ」を残してあげたい。

最後まで、平和を願った中沢さんの思いが伝わってきます。

この遺された思いをまた、次の世代へと繋いで行けるように

消えてしまわないように

毎年8月6日、みんなで歌い続け、思いを繋いでいきたいと思えます。

(経緯)

「愛の川」は、ゲンの連載40周年を記念して、2013年6月、広島市中区であったイベントで故中沢啓治さんの妻ミサヨさんが初めて朗読されました。

現在の広島 愛の川実行委員会の代表である作曲家の山本加津彦は、当時、アイドルグループのAKB48や東方神起、J U J U等のトップアーティストに楽曲などを手掛けていたが、新聞で詩を知り、「怒りや悲しみを作品にぶつけていた中沢さんが詩で表現した『優しさ』は重みと深みがある」と感動。

メロディーを付けたいとの思いを抱えて、広島市にミサヨさんを訪ね、交流を重ねていく。

「原爆と縁もゆかりもない自分が関わっていいのか」と葛藤しながら作曲を申し出ると、ミサヨさんは快諾いただき、「せつかく作るなら良いものを」と後押しされ、3番までの詩を約6分間の作品に仕上げた。

〈広島 愛の川2020〉

日本、世界の子供たちと国内TOPアーティスト、そして日本を代表するオーケストラの協力を得て作り上げた「広島 愛の川2020」にご参加いただいた方々！

〈一般参加者者〉

国内参加者数 約100名

北海道（稚内）～ 九州まで、合唱団&個人で参加

国外参加者数 約16カ国、約50名

アメリカ、中国、韓国、チリ、メキシコ、スイス、ウガンダ、モロッコ、カナダ、フランス、イタリア、インドネシア、タイ、スイス、フィリピン、エジプト

※上記は、7月27日現在の参加者数です。

〈参加アーティスト・団体〉



加藤登紀子さん



クリス・ハートさん



堂珍嘉邦さん
(CHEMISTRY)



島谷ひとみさん



二階堂和美さん



TEEさん



ふくい舞さん



新日本フィルハーモニー
交響楽団（約80名）



広島交響楽団（8名）

〈主催〉

主催団体紹介



HIROSHIMA ORIZURU TOWER
おりづるタワー

所在地 : 〒730-0051 広島県広島市中区大手町一丁目2番1号

公式サイト : <https://www.orizurutower.jp/>

広島は過去と現在、未来を一同に望むことができる唯一無二の空間、おりづるタワー。
広島観光の新スポットが原爆ドームの東隣にオープン。屋上展望台はメッシュで周囲が覆われたウッドデッキの展望スペース。広島の空気や風や光を肌で感じながら、原爆ドーム、平和記念公園、宮島の世界遺産・弥山まで大パノラマで見渡すことができます。「おりづる広場」にはおりづるを折って投げ入れられる「おりづるの壁」があります。テイクアウト専用のカフェや広島名産品の販売ショップも併設。瀬戸内の風を受けて、広島の過去、現在、未来を体感し、平和を願う時を過ごすことができます。

主催団体紹介 広島 愛の川実行委員会

公式サイト : <https://www.ainokawa.com/>



広島 愛の川

Hiroshima Rivers of Love

「はだしのゲン」中沢啓治 が未来へ書き遺した詩(うた)

「広島 愛の川実行委員会」は、原爆ドームたもとの本安川護岸で、毎年8月6日に楽曲「広島 愛の川」を合唱し、歌詞に込められた平和への願いを継承していく取り組みを行っております。

このプロジェクトは、2014年に、歌手の加藤登紀子さん、作曲家の山本加津彦さん、そして市民らの協力の下で、はだしのゲンの作者の中沢啓治さんが遺した「詩」を楽曲化したことに始まります。

その翌年、2015年8月6日に原爆ドームたもとの本安川護岸で行われる「とうろう流し」に合わせ、子供たちやプロ歌手らを中心とした総勢200名規模の混声部隊が「広島 愛の川」を合唱します。

中沢さんが遺された詩はこうして楽曲となり、その後も、「とうろう流し」に合わせて護岸一帯に響き渡るようになり、みんなで歌いつないでいくもの、となりました。



広島 愛の川実行委員会

代表 作詞・作曲家 山本 加津彦

出身 大阪府泉大津市

19歳の時、地元のレストランで、ジョン・レノンの「Love」の生演奏を聴いて、自分でも弾いてみたくなり、独学でピアノを始める。上京後、Soil "pimp" sessionsの文青に弟子入り。

音楽の修行に励みながら、リーダーバンドである「Ao-Neko」で活動。

Ao-Nekoで手がけた楽曲が評価され、様々なアーティストへの楽曲提供も行うようになる。

2007年より、SonyMusicPublishing と専属作家契約、

以降、主に作詞・作曲家として活動。

乃木坂46、AKB48、西野カナ、東方神起、夏川りみ等、様々なアーティストの作詞・作曲家を手掛けている。

〈協力団体〉

協力団体紹介 第三世代が考えるヒロシマ「 」継ぐ展



公式サイト : <https://tsuguten.com/>

第三世代が考えるヒロシマ「 」継ぐ展は、戦後70年の2015年に被爆三世である代表の呼びかけにより、活動を開始した任意団体です。

東京在住の30代のクリエイターやアーティストが中心となり「戦争を知らない世代が次の世代へ継承していく方法を探る」ことをテーマに、活動しています。企画展タイトル名の「 」には、情報を受け取るだけでなく、自分なりの答えを入れてほしいという思いをこめています。

<企画展開催>

- 2015年 東京 東中野 space&cafe ポレポレ坐 / 広島平和記念公園内とうろう流し会場 (来場者825名)
- 2016年 神奈川 みなとみらいギャラリー他 / 広島平和記念公園内とうろう流し会場 (来場者1260名)
- 2017年 IID 世田谷ものづくり学校 / CLiP HIROSHIMA / 広島平和記念公園内とうろう流し会場(来場者1100名)
- 2018年 せんだいメディアテーク / CLiP HIROSHIMA / 広島平和記念公園内とうろう流し会場(来場者2079名)
- 2019年 町田市生涯学習センター / CLiP HIROSHIMA / 広島平和記念公園内とうろう流し会場(来場者1726名)

<メディア掲載>

・朝日新聞・中国新聞・読売新聞・毎日新聞・日本経済新聞・東京新聞・日刊自動車新聞・NHK 広島放送局 お好みワイドひろしま・NHK仙台放送局・NHK 首都圏ネットワーク・NHK ラジオ第1・仙台放送・TBC東北放送・広島ホームテレビ・TSSテレビ新広島・RCCラジオ・テレビ神奈川 他多数

<ボランティア学生参加実績>

広島大学 / 広島市立千田小学校 / 広島市立吉島東小学校 / 広島県立広島観音高等学校 / 神奈川大学 他